

<福岡県環境について>

【調査の目的】

福岡県の環境のマスタープランである「福岡県環境総合ビジョン(第五次福岡県環境総合基本計画)」(※1)では、県民の皆さんと一緒に目指す5年後の姿を「誰もが安心して、たくさんの笑顔で暮らせる福岡県～環境と経済の好循環を実現する持続可能な社会へ～」と設定し、進捗管理のために、主要な環境基準の達成率等の20の数値指標を設定しています。

これらの数値指標に加えて、環境に関する実感を把握するため、県政モニターの皆さんの御意見をお聴かせください。

【活用状況】

環境総合ビジョンの進捗管理の一環として、環境へのニーズや満足度等を把握し、環境施策へ活用します。

(環境部 環境政策課)

※1 福岡県環境総合ビジョンとは

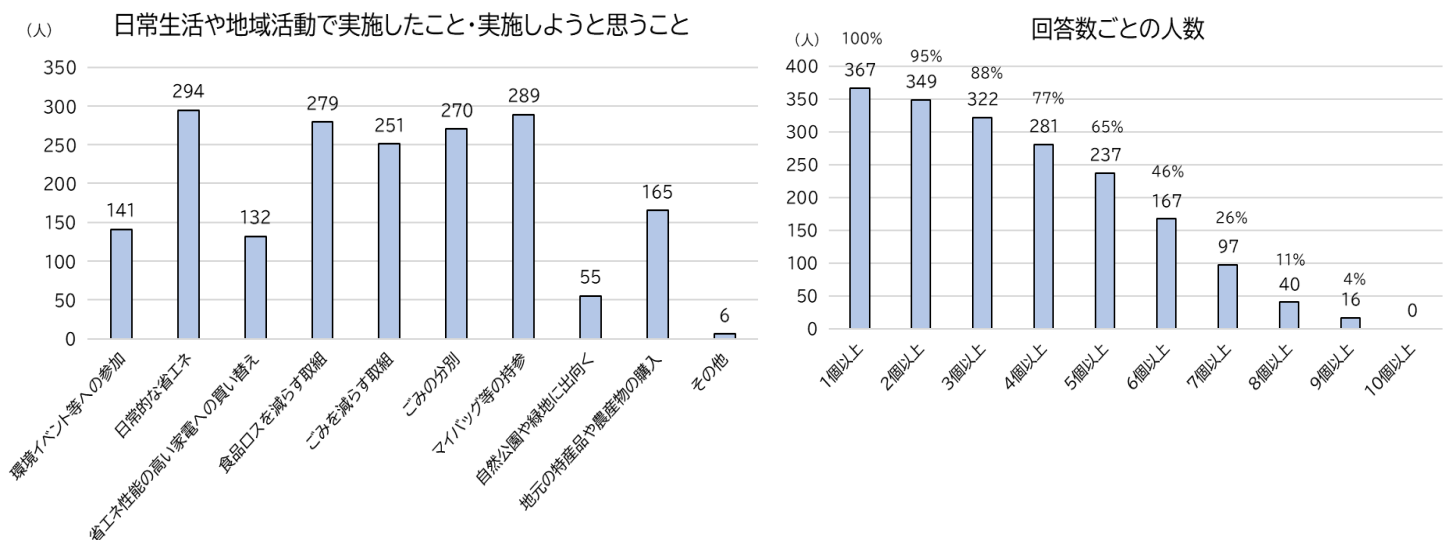
福岡県の環境行政の基本的な方向性を示すとともに、経済成長と環境保全が両立した持続可能な社会の構築を目指して、県民、事業者、行政など、全ての主体が環境について考え行動する際の指針となるものです。

詳しくは、下記を御覧ください。

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/env-vision.html>

<1> あなたが日常生活や地域活動の中で「実践したこと」又は「実践しようと思っていること」はありますか。

(n=367 複数回答可)



<2> あなたが普段生活している身の回りの環境について、現在、満足しているのはどのようなところですか。

(n=367 複数回答可 回答件数=1,375)

ごみが正しく管理・処理されていること	185	50.4%
身近な自然(海、山、雑木林、川、野鳥など)と触れ合えること	151	41.1%
水が汚染されていないこと	130	35.4%
住まいの周りの静かさ	117	31.9%
空気や空が汚染されていないこと	113	30.8%
太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること	88	24.0%
環境に負荷をかけず、安全・安心な、資源を有効活用するリサイクルが行われていること	83	22.6%
モノや資源が大切に使われ、ごみが少なく資源の無駄遣いがないこと	79	21.5%
省エネルギーの取組が行われ、家庭や会社でエネルギーが効率よく使われていること	72	19.6%
豊かな自然の恵み、生物の多様性を活かす社会経済活動が行われていること	62	16.9%
環境関連の技術や産業が向上・発展していること	57	15.5%
様々な産業において、環境に配慮した取組が行われていること	52	14.2%
家庭や会社で、環境配慮型製品が選べること	48	13.1%
希少な動植物を守る取組や里山保全活動などの地域の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組が活発に行われていること	36	9.8%
地域(自治会、サークル、NPOなど)で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていること	35	9.5%
誰もが環境の大切さを意識し、日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていること	33	9.0%
環境について満足しているところはない	32	8.7%
その他	2	0.5%

無回答 0名 0.0%

〔その他〕

- ・ どのレベルでの満足なのかの問題はあるが、満足していないとの回答にさせてもらった。
- ・ 田畑が消え山が削られ林が消えた。気温が 1、2 度上がって生活しづらい。

<3> あなたが普段生活している身の回りの環境について、この10年間で良くなったと感じるのはどのようなところですか。

(n=367 複数回答可 回答件数=1,212)

ごみが正しく管理・処理されていること	134	36.5%
太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること	118	32.2%
省エネルギーの取組が行われ、家庭や会社でエネルギーが効率よく使われていること	108	29.4%
環境に負荷をかけず、安全・安心な、資源を有効活用するリサイクルが行われていること	98	26.7%
水が汚染されていないこと	85	23.2%
モノや資源が大切に使われ、ごみが少なく資源の無駄遣いがないこと	84	22.9%
環境関連の技術や産が向上・発展していること	75	20.4%
空気や空が汚染されていないこと	64	17.4%
様々な産業において、環境に配慮した取組が行われていること	61	16.6%
身近な自然(海、山、雑木林、川、野鳥など)と触れ合えること	59	16.1%
家庭や会社で、環境配慮型製品が選べること	58	15.8%
環境についてよくなったと感じるところはない	45	12.3%
住まいの周りの静かさ	43	11.7%
豊かな自然の恵み、生物の多様性を活かす社会経済活動が行われていること	39	10.6%
10年前とは違う地域に住んでいるので分からない	39	10.6%
誰もが環境の大切さを意識し、日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていること	36	9.8%
地域(自治会、サークル、NPOなど)で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていること	33	9.0%
希少な動植物を守る取組や里山保全活動などの地域の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組が活発に行われていること	31	8.4%
その他	2	0.5%

無回答 0名 0.0%

〔その他〕

- ・ この10年では身の回りの環境の改善は目立たない、30年前だと大幅に改善されたと感じるのは大気汚染。
- ・ 4項目について改善ありとしたが、これが県独自の取組なのかは不明。

<4> あなたが普段生活している身の回りの環境について、不安や不満と感じるのはどのようなところですか。

(n=367 選択は4つまで 回答件数=797)

モノや資源が大切に使われず、ごみが多いことや資源が無駄遣いされていること	115	31.3%
空気や空が汚染されていること	90	24.5%
ごみが正しく管理・処理されていないこと	66	18.0%
水が汚染されていること	56	15.3%
環境について、不安や不満と感じるところはない	52	14.2%
住まいの周りの静かさが保たれていないこと	50	13.6%
太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていないこと	46	12.5%
省エネルギーの取組が行われず、家庭や会社でエネルギーが無駄遣いされていること	43	11.7%
希少な動植物を守る取組や里山保全活動などの地域の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組が活発に行われていないこと	39	10.6%
豊かな自然の恵み、生物の多様性を損なう社会経済活動が行われていること	38	10.4%
環境に負荷をかけず、安全・安心な、資源を有効活用するリサイクルが行われていないこと	34	9.3%
環境関連の技術や産業が向上・発展していないこと	33	9.0%
地域(自治会、サークル、NPOなど)で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていないこと	30	8.2%
身近な自然(海、山、雑木林、川、野鳥など)と触れ合えないこと	28	7.6%
日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていないこと	27	7.4%
様々な産業において、環境に配慮した取組が行われていないこと	22	6.0%
その他	16	4.4%
家庭や会社で、環境配慮型製品が選べないこと	12	3.3%

無回答 0.0% (0名)

〔その他〕

- ・ 環境配慮型製品を購入する際に補助金の話が店舗側からあった。供給側にもインセンティブがある仕組みがあると買って買い替え需要が膨れるのではないかな。
- ・ 一例として公共施設での節電意識が低い。
- ・ これと言って具体的にはないが、気象の変化などで漠然とした不安を感じる。
- ・ 環境問題を取り組むときにもっと県が補助をしてくれとか、太陽光をつけることを全体に推奨し、補助をしてくれたりしないと、お金に余裕がないとエネルギーに関して出来ることは何もない。
- ・ 供給電力 UP を謳い文句に、山地や少し広めの空き地に、大量の太陽光パネルを敷き詰められているが、これらの寿命は10～12年と言われており、12年後の後始末処理が野放しになっていること。
- ・ かつて美しかった田舎の山の斜面に太陽光パネルが張り巡らされていること。果たして環境

に優しいエネルギーなのか疑問に感じる。

- ・私の地域にも山肌に太陽光パネルがびっしりと敷き詰められている地域がある。本当にエネルギーとして必要なのか疑問で、自然破壊の部分が大きいように感じる。特に地震や台風などの災害は下の住宅地に住む人の安全が脅かされることが不安に感じる点。
- ・太陽光パネルの設置でどんどん周囲の緑が失われていっていること。
- ・企業や個人の意識が高まり、リサイクルや技術の向上発展は進んでいると感じる。一方、世界的な資本主義経済の発展に伴い、意識や技術発展を上回る欲望からモノ・資源の消費は止められないとも感じる。子どもたちを思うと不安、自分も含め大切なことは何かを考え意識を変える必要がある様に思う。
- ・リサイクルが少ない。プラごみもスーパーのごみ回収を使わないとリサイクルされない。
- ・リサイクル業者の無料回収チラシが怪しい。不燃ごみの日に集合住宅などの私有地に出されるアルミ缶などの窃盗など、税収を横取りする窃盗行為に厳罰化を。
- ・大型施設(商業施設や大学も含む)での節電や省エネの取組はまだ改善する余地があるように思われる。また、食品ロスの量は全体としては減少傾向にあるのかもしれないが、身近な効果としては感じられにくい。
- ・私の住む地域は周囲を山で囲まれており、農業従事者が多いこともあり、草や竹などと一緒に家庭の一般ゴミやプラスチック性商品と一緒に燃やす人々が居て大変困っている。喘息持ちにとっては本当に環境被害で迷惑を被っている。福岡県としても家庭ゴミを自宅等で燃やさない、たくさん木や雑草などは無料で引き取るような事業を今後行っていただきたい。日本は世界的に見て色々取り組んでいて、色々目標も掲げられている。さらに頑張ろうとしているが、かえってお金がかかったり、それに縛られ過ぎている気もする。ほどほどが良いと思う。
- ・下水道が整備されていない地域で合併浄化槽が整備されていない築年数の古い家が多く、生活雑排水が水路を通じて川に流れていることに不満。
- ・ほぼ等間隔に立つ電柱には必ず犬の跡があり、多くの飼い主は水をペットボトルなどで持参し犬の行動の後には流しているようだが、ただ水を掛けているだけで乾けば希釈されたように見える成分は残っている。どの電柱も地面の部分は変色し見た目も非常に悪く電柱自体の強度も心配。
- ・歩きタバコや店前の喫煙エリアによって、生活に使う道路の空気が汚染されている。

<5> 福岡県環境について、これまでの設問以外の意見(抜粋)

<① 経済・社会のグリーン化>

- ・省エネ製品への買い替え等で、福岡市内は助成金の対象だが、北九州市など他市は対象外なので、県政として実施して欲しい。

<②持続可能な社会のための地域づくり・人づくり>

- ・環境保全の取組を進めるとともに、子どもから高齢者まで環境について学べる機会を増やしていただきたい。また、公園や公共施設などの緑を守りながら、誰もが安心して利用できるバリアフリーな環境整備も進めていただけると、より暮らしやすい地域になると感じる。一人一人が環境保全に取り組みやすいよう、分かりやすい情報発信や啓発活動も期待している。障がい児でも分け隔てなく遊べる公園をもっとつくって頂きたいのと安全を守るため点検を頻繁に行って欲しい。

<③脱炭素社会>

- ・エコファミリーのアプリを広めてほしい。
- ・水や空気において環境は悪くないと感じるがエコに関しての取組をもっと県民に周知すべき

だと感じている。

- ・ アプリでエコ通勤を楽しく：公共交通やシェアサイクル「チャリチャリ」での移動を AI で計測し、CO₂ 削減量に応じて地元飲食店の特典等と交換できる仕組み（「脱炭素エキデン」など）を県全体へ広げるなど。食品ロスを街のエネルギーに：飲食店から出る生ごみを地域でバイオガス（燃料）や肥料へ循環させる。
- ・ 各家庭や事業者に対して、省エネをさらに促進する働きかけを強化すべき。
- ・ 国と県の役割の棲み分けがわかりにくい。脱炭素については 2050 に向けて福岡県としてどう実現するのか、よくわからない。エネルギーのインフラについて国との連携になってくると感じているが、どちらにも実現可能性が提示されていないように感じる。
- ・ 地球温暖化の加速化が早まっているが、これはずいぶん前からの出来事であり、これを回避していくことは容易ではないことは皆さん重々重く受け止めている。ただし、これ以上の加速を抑えるためにも、上記項目にもあった節電、節水、節約など一人一人の意識と徹底が必要だと考える。
- ・ 太陽光パネルの耐用年数が過ぎた時の廃棄処理を考えると処分場はどうするのか？処分に当たっての化学物質による環境汚染などを考えると不安になる。もう、これ以上、外国産の太陽光パネルを設置するべきではないし、補助金を支出するべきではないと思う。そして、現存の太陽光パネルの処分をどうするかを検討するべきだと思う。
- ・ 再生可能エネルギーの普及を理由とした、森林伐採を伴う大規模な太陽光パネル設置（メガソーラー開発）の規制厳格化を強く求める。森林は CO₂ の吸収源（水源涵養機能）であり、これを伐採してソーラーパネルを設置することは「脱炭素」の本質に反する本末転倒な行為。さらに、近年の九州北部豪雨に代表される局地的な大雨の際、保水力を失った斜面からの土砂崩れや泥水流出など、下流地域の安全を脅かす二次災害リスクが極めて高くなる。県独自の基準として、①土砂災害警戒区域や急傾斜地への設置制限・禁止措置の義務化②開発許可基準のさらなる引き下げ（現行の森林法における太陽光目的の林地開発許可基準「0.5 ヘクタール超」のさらなる厳格化や、分割開発対策の徹底）を進め、安易な山林開発に歯止めをかけるべき。
- ・ 山に行くと至る所に太陽光パネルが取り付けられている。場所にもよると思うが、どのくらいの電気をつくり、どのくらい太陽光の電気の使用量を蓄えどのくらい使用があるのか、金額的にもどのくらいのメリットがあるのか、詳しい情報を広報などで具体的に知らせて欲しい。
- ・ 九州では太陽光発電が普及しているが発電された電力が十分に活用されず、給電停止していると新聞などで報道されている。全国的に電気の融通ができるように知事会などで意見発信されてはどうか？国にも積極的に取り組んで欲しい。
- ・ 若松の海上風力発電は、海上工事などを含め、自然環境が変わる可能性があるように感じた。
- ・ 取り立てて感じることはないが、いまの生活に再生可能エネルギーが利用されているとすれば、どこにどの程度利用されているのか興味はある。
- ・ 風力や地熱など、再生可能エネルギーの開発、利用を積極的に進めること。
- ・ 再生エネルギーの補助金と分別回収リサイクルシステムの補助金だけ出して、あとは市町や民間に任せたらよい。
- ・ 県と市町村がコラボして、「エネルギーの地産地消」や「エネルギーと食の地産地消」の実践モデルを開発するような取組が必要だと考える
- ・ 電気自動車補助金を増やしてほしい
- ・ 現在、環境関係の市施設にて緑地管理している。直接的には分からないが年に何度か環境や安全性とかの勉強会や講習会がある。
- ・ きれいな自然環境を次の世代に残せるよう、ごみの不法投棄対策や河川・公園の美化活動

をさらに進めていただきたい。また、暑さ対策として街路樹や緑を増やす取組も期待している。

- ・ 近年猛暑続きである。この先 10 年以降も暮らしやすくして欲しい。電気や水等も心配。
- ・ 環境は以前に比べて夏はより暑く冬はより寒くなりエアコンを使用する期間が伸びている。結果温暖化に拍車をかけているようだが気候変動に対する取組はどうか。
- ・ 熱中症対策として、外仕事の業種に熱中症対策品を購入できる商品券などをあげてほしい。

<④循環型社会>

- ・ 福岡県内での廃棄物投棄、環境犯の事案が少ないわけではないので福岡県警察本部生活安全部と連携の上取り組んでいただきたい。
- ・ 福岡県は全国的にも珍しく家庭ゴミは夜の回収。交通状況やカラスや猫などの被害から考慮すると理想的な時間帯だと思う。ただそれでも指定のゴミ袋を使用せず回収出来ない物やテレビや冷蔵庫等手続きをせず田舎道に廃棄しているのを時々見かける。もちろんちゃんと罰則はあるでしょうが犯人を見つけるのは容易な事ではない様に思える。県民の一人一人が意識しないと綺麗な街は維持できない。そういう意味でも広報や学校等でも呼びかけが大切だと感じる。
- ・ ゴミ出しの場所を出来るだけまとめて、カラスなどの動物からの被害を少なくならないか。また、いまだにゴミ出しのマナーを守らない県民を見かける。更なる啓蒙活動を期待。
- ・ 私の近くの公園でもゴミがたくさん（煙草の吸殻、空き缶、ペットボトル、お菓子の袋等）が捨てられている。毎朝私が拾っているが、小中学校等でゴミ捨てについてのマナー教育等を行ってみたいかがだろうか。また、地域の高齢化で公園を掃除するボランティアがいなくなっている。行政に負担をかけるのも気が引けるが、何か良いアイデアはないものだろうか。
- ・ 自分の周りの環境が豊に感じ暮らしているため不安や不満をあまり感じていないのかもしれない。今は飲食店のゴミの分別もあたりまえで、ゴミは持ちかえるという意識（ゴミ箱の数の減少）もあり、ルールを守らない（例えば観光地のような場所）とは違い人の意識が大きく影響するものだと思っている。
- ・ 自治体の活動に、全ての人が賛同していないせいか、自動販売機のリサイクルボックスに家庭ごみや、煙草など持ち込む人の多いことに驚く。お金をかけずに色々なゴミを持ち込む方々を悲しく思う。
- ・ 徳島県上勝町の取組を学んでいただきたい。
- ・ 15年ほど前に関東から引っ越してきたが、家庭ゴミの分別が細かくなく、出すには楽だがリサイクルが上手くされていないのではないかと感じている。
- ・ 福岡市の燃えないごみ、空き瓶、ペットボトルの収集が月 1 回は少なすぎる。だから、不法投棄や収集日以外に出したり、コンビニに捨てたりすることが起きる。北九州市に住んでいたのも、違いに驚いている。
- ・ ゴミの回収日が少ないので、増やしてほしい。また地域のゴミ当番のような役割は行政が担ってほしい。
- ・ 私が住んでいるみやま市では SDG_s の取組でゴミの分別が細かくある。今まで、こんなに細かい分別している地域はなくびっくりしている。良い取組なのかなあと思うが、面倒という意見もあり、子供たちはもちろんのこと大人もなぜこんなに環境を考えて面倒なことをやっているかを知るイベントなど近くであればいいなあと思う。
- ・ 地域によって差が大きいと感じる。ゴミ収集は福岡市のように夜が良いと思う。せめて酷暑の間だけでも、作業員の方達の健康が大切。
- ・ 大阪など県によってはゴミの指定袋はないと聞くと、違いは何か。環境は大切だが指定袋の負担も大きい。

- ・ 普段のゴミではなく使っていない油や使いかけのスプレー缶、モバイルバッテリー等ゴミに出す際にひと手間かかるものの集荷施設を商業施設と提携してつくってほしい。
- ・ 近くに広域焼却処分施設がある。施設の経過年数も大分経っている。家庭からの生ごみを減らす PR 及び支援が更に必要と感じる。
- ・ 日頃から地元の豊かな自然(海や公園など)に癒やされているが、一部でポイ捨てやペットの排泄物放置といったマナー違反が見受けられるのが残念。自然を守るための啓発活動をさらに強化するとともに、ペットを連れて安心して散歩や散策ができるよう、マナー向上のための看板設置やゴミ箱の適切な配置、ルール周知をより積極的に行っていただきたい。人と動物、そして自然が心地よく共生できる福岡県であってほしいと願っている。
- ・ 外国人観光客や日本で働く外国の方が増えている中で、ゴミのポイ捨てや分別ルールが守られていない場面も見られる。日本の環境や衛生を守るためにも、ごみ出しのルールやマナーについて、多言語での周知や教育を充実させてほしい。外国の方にも日本のルールを理解してもらい、地域全体で美しい環境づくりに取り組めるようにしてほしい。ゴミ分別についても分別の仕方があいまいな部分があったりするので、分かりやすく絵などで書かれた紙を配ったりして、もう一度周知した方がいいと思う。
- ・ 宗像市のように、公共が不用品を引き取って販売するところが増えてほしい、一時置き場みたいな場所を作って、あまり費用や人件費をかけずにできないか。年に1回でも良いので、有用な品物を一時保存場に置けるイベントなどを行っても良いのでは。廃校の体育館など、どこか一時保存場所はありそうな気がする。
- ・ 製品のライフサイクルを考えた真の省エネが望まれる。
- ・ リサイクル事業の紹介等が強化されるといいかと思う。
- ・ 最近マイボトルが流行っているため、この機会にもっといろんなところで水を吸水できるように設備を整えてほしい。
- ・ リサイクル業者や回収業者からよく電話がかかってくるがあまり信用できない。
- ・ 身近にトレイ、ペットボトルなど資源の回収場所が増えてきて便利になったが、まだまだ他の資源の回収場所が増えるように、企業などに支援してほしい。
- ・ 人口増加の影響に伴い、マナー(ゴミのポイ捨て等)の低下を感じる。買いやすい値段の物も多く、プラスチック等素材の進化が激しく簡単に購入出来るが、すぐに故障をきたし、ゴミになっていると感じる。リサイクルでは、もう間に合わない。簡単に、買わないといった取組が必要。
- ・ 海洋プラスチックが及ぼす生態系への影響が不安。
- ・ 燃えないゴミ収集の際に一般の業者さんと思しき方が軽自動車などを町中何度も走らせアルミ缶類を全て持ち去っている。犯罪にはならないのか。取り締まれないものか。

<⑤自然共生社会>

- ・ 福岡県は、都会と田舎？のマッチングがよい。環境も、まずまず頑張っている方で、海も、山もあり、自然も素敵な場所である。是非、自然を大切に頑張してほしい。
- ・ 福岡県は産業・開発優先で環境保護は不十分。
- ・ 土地利用についても、見直すべきである。過剰な宅地化の防止や、過剰な都市域の人工環境の植栽や樹木による緩和。開発についての自然循環的な仕組みの尊重。たとえば雨水の土地の浸透性を高め土壌の健全化や地下水への配慮。など本来の自然と調和した美しい県土にする必要がある。
- ・ 環境について、身近でカラスが増えていると感じるので県として駆除対策を講じられないのをお願いしたい。
- ・ 外来種を減らす厳しい規定作る事。

- ・水遊びができるくらい綺麗な小川とかあったが、今では白く濁ったりして水は汚れたと感じる。
- ・私は、溪流釣りをするが、ヤマメなど、シーズンが始まってみんな数週間で根こそぎ釣っているため、7月には全く釣れない。毎年放流されているようだが、悲しくなる。ちなみに、私家族はリリースする。もう少しそういうところにも目を向けてほしい。これは海でも同じ。目に見えているところだけが問題ではない。漁協の問題といえばそうだが。身近な自然(海、山、雑木林、川、野鳥など)と触れ合えないことだと思う。

<⑥健康で快適に暮らせる生活環境>

- ・黄砂、PM2.5、花粉など人体に影響する空気の汚染が気になる。毎日のPM2.5や花粉飛来情報提供はありがたい。
- ・身近なことで不満・不安があるのは、福岡市東区と糟屋郡志免町に住んでいる際に空気中の飛散物でベランダの床が真っ黒になること。掃除してもしてもすぐ真っ黒になり、洗濯や健康被害も心配。空港が近いからか？などと考えたが、飛散物の成分が気になる。
- ・PM2.5や花粉の問題など、何も対策がなされていないと感じる。
- ・買い物をしたとき以前は無料で袋に入れてもらっていたが、環境保護や資源保護の観点から有料になった。でも、エコバックを忘れた場合袋を有料で買ってしまいが、この代金は環境保護の為に使われていると損した気持ちにならないのにといつも思う。水の問題は芦屋基地からの汚染物質に地下水が汚染されたこと。
- ・福岡の水道水はとても不味い。かつて全国ワーストと言われた大阪の水よりも不味いと感じる。大阪は相当努力して水道の浄水技術を向上させたらしく、現在は直接飲んでも不味いとは感じなくなった。福岡の水道水は喉に引っ掛かるような違和感があり、直接飲めない。街でよく見かける光景として湧水や地下水の汲み場をたくさんの人が利用していることがその事実の証明かと思う。浄水技術の改善、向上を要望する。
- ・特に水資源について。静岡などでは、海外資本に水源地が買われてしまっていると聞く。豊かな水資源は貴重。法律で勝手な売買ができないように保護するのが1番だが、それが無理なら公的に水資源を守る取組をぜひお願いしたい。
- ・雑草がとにかく多いので、各市区町村と連携をはかり、道路の環境保全に努めてもらいたい。
- ・市営バス路線で、歩道がほとんどないところにバス停がある箇所が多い。MaaSを活用し、利用実態に合わせて危険箇所の優先順位を定め、限られた資金を効率良く有効活用して、バスを利用する市民、観光客、弱者に対する安全対策を推進してほしい。
- ・福岡県内の道路はあまり都市部に木が植えられておらず、手入れもなされていない印象がある。また、地方においても他の県と比べ、「自然はあっても人の手が全く加えられていないため、人が立ち入れない、使えない」場所が多くある印象がある。
- ・私が住んでいる田舎のほうでも、田んぼが次々と住宅や商業地に替わり、環境の変化が目まぐるしい。空き家の増加と、宅地開発のアンバランスさが顕著な地域に感じる。

<⑦国際環境協力>

- ・越境大気汚染(黄砂・PM2.5)を起点とした現状の課題。「出かけたくても出かけられない」健康リスクと移動抑制。呼吸器疾患やアレルギーを持つ高齢者・要介護者・子どもにとって、黄砂やPM2.5の飛来日は外出そのものが大きなリスクとなり、QOL(生活の質)の低下や社会的孤立を招いている。観光・地域経済へのダメージ。せっかくの観光シーズンでも、視界不良(景観悪化)や健康不安から外出や旅行を控える動きが生じ、観光・移動関連産業へ影響を与える。事後対応(注意喚起)にとどまる情報発信。「濃度が高くなったから注意してください」という情報発信が中心で、生活や移動の現場で「どう回避し、どう安全に行動するか」という具体的なソリューション提示が不足している。

- ・ 年々黄砂による空気汚染がひどくなるのを肌で感じている。洗濯物も車も粉が付着している。風邪ではない咳、皮膚の痒みなどアレルギーの薬を服用することが増えた。黄砂による何らかの対策について発信してほしい。

<⑧その他>

- ・ 福岡県の環境施策について、県民としてその重要性を強く認識している。気候変動対策、自然環境の保全、廃棄物処理の適正化、再生可能エネルギーの推進など、環境行政は県民の生活に直結する極めて重要な分野である。特に福岡県は都市部と自然環境が近接しており、環境保全と経済活動の両立が求められる地域であるため、現場に即した実効性のある施策を着実に進めていただきたい。そのうえで、将来的な方向性について一つ懸念がある。それは、環境施策を「ワンヘルス」という広い理念に結び付けて推進しようとする可能性である。ワンヘルスは、人・動物・環境を包括的に捉える国際的な概念であり、学術的には一定の意義があるとされている。しかし、環境行政は本来、地域の実情に合わせた具体的な課題解決が中心であり、理念を過度に導入することで施策が抽象化し、県民にとって分かりにくくなる恐れがある。環境施策は、地域の自然保護団体、企業、住民など、身近な主体との協働が不可欠であり、理念よりも実務が優先されるべき領域である。ワンヘルスの枠組みを導入することで、予算や人員が理念主導で配分され、従来の環境行政として必要な施策が後回しになる可能性も否定できない。例えば、廃棄物処理の改善や河川環境の保全など、県民が直接恩恵を受ける施策は、理念よりも現場の課題に寄り添った対応が求められる。また、環境行政は県民の理解と協力が不可欠だが、ワンヘルスのような専門的で抽象的な概念を前面に出すと、広報が難しくなり、県民の参加意識が低下する可能性がある。環境施策は、県民が自分ごととして取り組めるよう、分かりやすく具体的な説明が重要。以上の理由から、福岡県には、環境施策を将来的にもワンヘルスに過度に結び付けず、従来の環境行政として、地域の実情に合わせた具体的で着実な施策を継続していただきたいと考える。理念よりも実務、抽象的な枠組みよりも現場の課題に寄り添った行政運営を望む。
- ・ 環境への取組の事を知らない。
- ・ 一人一人の意識や取組が大切だと思うので自分一人が意識しても劇的に変わることは正直少ないかと思うが、やらないよりやった方がいいと意識している。もっと SNS や知名度がある人たちを起用して積極的にアピールすることで目に止まり、意識する人が増えるかもしれない。
- ・ 環境保全は行政だけでなく、県民・事業者・地域が協力して取り組むことが重要だと思う。また、環境施策の成果を分かりやすく公表し、効果を検証しながら継続的に改善していただきたい。
- ・ 環境保全と経済成長は両立できると考える。県民一人一人が取り組みやすい省エネやリサイクル活動を引き続き支援するとともに、企業による脱炭素や再生可能エネルギーの導入支援を強化してほしい。また、環境施策の成果を分かりやすい数値で公表し、県民が効果を実感できる情報発信を期待する。
- ・ 環境とか再生可能エネルギーのような大きなテーマより投げ捨てをしないような小さいテーマで啓発する。
- ・ 福岡県環境総合ビジョンの【概要版】、【本編(全体)】をざっと見た。【本編(章別)】まではたどり着くことはできなかった。県の指針となるものなのである程度のボリュームがあるのは当然のことで理解できるが、県民にこの総合ビジョンを理解し一人一人の行動に移すことを期待しているのだろうか。だとすると、見やすく、わかりやすくする努力が必要ではないか。経済産業省の HP などをもみても項目別に分けた映像やイラストを多数使い、この施策を読んだと訴えている。重要な施策を時間をかけ議論し決定した項目なら広く県民に訴え、一人でも多くの県民が施策を自分事とらえて行動してくれることが大事ではないか。

- ・ 環境保全は将来の世代に豊かな自然を引き継ぐために重要であり、県の取組を支持する。一方で、環境政策を進める際には、「環境」と「経済活動」「県民生活」とのバランスを十分に考慮することが必要だと考える。
- ・ 県全体では良い地域、悪い地域があると思うので一概に言えないが、私の住む地区については総じて環境に問題があるとは思っていない。
- ・ 環境対策によって県民や事業者に新たな負担を求める場合には、その効果や費用対効果を分かりやすく示し、理解と納得を得ながら進めることが重要。また、規制を強化するだけでなく、新しい技術や民間の創意工夫を生かす支援策を組み合わせることで、環境保全と地域経済の発展を両立できるよう期待。
- ・ 環境政策は、自然を守ること自体を目的とするのではなく、県民が安心して暮らし、地域産業も持続的に発展できる社会を実現するための手段であるという視点を大切にしていきたいと思う。
- ・ 福岡県に住んでいるので福岡県の住民がまずは環境についてよくしていこうとする行為は良いことだと考えるが、地球上から見ると小さな地域でしかなく、佐賀県や熊本県や大分県及び山口県も同時期に行っていかななくてはならず、日本全国、韓国や中国も同時に行わなければ、良い行為による環境汚染の食い止めは薄まってしまう。しかしながら、誰かが、どこかがまずは開始しないといけないということも理解する。環境をよくすることにより、住みやすい県というアピールに活用することは大いに良いと思う。産業との兼ね合いが環境問題には付きまとう課題だが、それをどのように解決していくのかが今ひとつわからない部分である。地域の住民の活動により県民のやった感を掻き立てるためのみの行為ならば、県が率先してやるべき。
- ・ 県が大きな指針を示して、各企業や個人がコツコツと環境対策を積み重ねることが大切だと思う。
- ・ 福岡県環境総合ビジョンの実現には、一人一人が取り組みやすい環境づくりが重要だと思う。例えば、マイボトルやエコバッグの利用、食品ロス削減など、身近な行動を続けることでポイントや特典が受けられるような仕組みがあればと思った。他県では、リサイクルをするとポイントが貯まる取組があるとテレビで見た。福岡県でも、環境に配慮した行動をポイント制度などで後押しすることで、多くの県民が気軽に環境保全に参加できると思う。
- ・ 福岡県の豊かな自然環境を将来に引き継ぐため、森林・河川・海岸の保全や清掃活動を継続的に進めていただきたい。地球温暖化対策として、省エネルギーや再生可能エネルギーの普及を進めるとともに、豪雨や猛暑など気候変動への適応策にも力を入れることが重要だと考える。また、ごみの減量やリサイクルをさらに推進するため、分別しやすい仕組みづくりや環境教育を充実させ、県民一人一人が環境保全に取り組みやすい環境を整えていただきたい。あわせて、企業・学校・地域団体と連携した環境保全活動を支援し、自然環境と地域経済が両立できる持続可能なまちづくりを進めることを期待する。
- ・ 環境が良くなっていると感じることはないのかも。どちらかということと生活が便利で向上していると環境は反対に犯されている気がする。

<6> 満足・不満足に関する回答の経年変化^{注)}

<①経済・社会のグリーン化>

「産業での環境に配慮した取組」「環境関連技術・産業」に対する満足度は、横ばいで推移しています。

<②持続可能な社会を実現するための地域づくり・人づくり>

「環境配慮行動」に対する満足度は、横ばいで推移しています。

<③脱炭素社会への移行>

「省エネルギーの取組」に対する満足度は、横ばいで推移しています。

<④循環型社会の推進>

「ごみの管理・処理」に対する満足度は比較的高く推移しています。「資源の有効利用」に対する満足度は、横ばいで推移しています。

<⑤自然共生社会の推進>

「身近な自然との触れ合い」に対する満足度は、比較的高く推移しています。「豊かな自然の恵みを活かす社会経済活動」に対する満足度は、横ばいで推移しています。

<⑥健康で快適に暮らせる生活環境の形成>

「水の汚染」「空気の汚れ」「住まいの周りの静かさ」に対する満足度は、横ばいで推移しています。

満足していないと感じる割合については、「<持続可能な社会を実現するための地域づくり・人づくり>環境配慮行動」、「<脱炭素社会への移行>省エネルギーの取組、再生可能エネルギーの活用」、「<循環型社会の推進>リサイクル」は減少傾向にあります。

一方、「<経済・社会のグリーン化>環境関連技術・産業」「<持続可能な社会を実現するための地域づくり・人づくり>環境保全・環境教育を通じた地域づくり」は今年度増加傾向にあり、これらの項目については、今後の環境に関する取組の進め方に活かし、県民への情報提供や普及啓発に取り組んでいく必要があります。

注)登録していただいているモニターは毎年度変わっています。

